



木曾海道六拾九次を辿って 中山道を旅してみた

—旅人ミーモくんとめぐる中山道— 太田宿～京都三条大橋編

当館では平成8年(1996)の開館以降、中山道の宿場町として、これまで「浮世絵の世界展」「中山道本陣展」「中山道美濃十六宿展」「江戸時代の旅行展～旅行用心集～」 「弥次・喜多の旅 道中記でたどる中山道の旅展」 「歌川国芳の描いた木曾街道六十九次」 「道中記江戸時代の旅ガイド」 「岐路安見絵図を辿って、電動アシスト付自転車で中山道を走ってみた！」 など、さまざまな視点から“中山道”を紹介してきました。中山道といえば、四季折々の美しい風景はもちろんのこと、食や文化、そして、そこに暮らす人々の生活などから、当時の風情を今も感じることのできる貴重な文化遺産であり観光資源でもあります。

令和2年度より当館特別展では、江戸時代の浮世絵作品「木曾海道六拾九次之内」シリーズを取り上げ、当時の浮世絵のモデルとなった場所が一体どこなのか...実際にその地を訪れ、その風景を目で見て、感じ、あるいは地元の方々にお話を伺いながら全力取材をおこない、中山道沿いに69ある宿場のうち、伏見宿(岐阜県可児郡御嵩町)から深谷宿(埼玉県深谷市)までの42宿について紹介してきました。そして今回は、その続編にあたる太田宿(岐阜県美濃加茂市)から大津宿(滋賀県大津市)までの19宿と京都三条大橋(京都市中京区)を紹介いたします。

中山道とは…

江戸時代、江戸と京都を結ぶ主要街道として整備されたのが中山道でした。慶長5年(1600)、天下分け目の「関ヶ原の戦い」に勝利した徳川家康は、いち早く街道の整備に着手し、翌年の慶長6年(1601)には東海道を、そして慶長7年(1602)には中山道を整備します。中山道には69の宿場が設けられ、人や物、情報、文化などが往来しました。この中山道は、東から現在の東京都、埼玉県、群馬県、長野県、岐阜県、滋賀県、京都府の1都6府県をまたぎ、総延長は約534kmに及びます。

旅人ミーモくんとめぐる中山道

「江戸時代の浮世絵を通して…」という切り口から、歌川広重と溪斎英泉が描いた往時の中山道の風景を現代の風景と重ね合わせることで、江戸時代と現代の比較を通じて中山道の歴史と変遷、そして中山道の現代(いま)を知っていただくとするものです。本特別展を通じて中山道の魅力を感じ、御嵩町のシンボルキャラクター「旅人ミーモくんとともに中山道を巡った気分を味わっていただければ幸いです。



御嵩町シンボルキャラクター「ミーモくん(旅人風)」



歌川広重「木曾海道六拾九次之内 垂井」(国立国会図書館デジタルコレクション)



歌川広重「木曾海道六拾九次之内 垂井」モデルの地(推定)

展示ガイドツアー

本特別展の開催期間中、中山道みたけ館職員が展示内容を解説します。

- 日時 毎週日曜日、午後2時から(30分程度)
- 定員 10名程度(先着順、申込不要)
- 参加費 無料
- 受付 当日午後2時まで、中山道みたけ館2階郷土館フロアにて
- その他 新型コロナウイルスによる感染症の状況によっては中止する場合があります。参加される際はマスクの着用や手指の消毒などの感染症対策をお願いします。

